

春まだき

(6)
— 中学卒業 —

(とうみ・まこ)
柊実 真紅

目次

あなたへ。	1
12/17	2
12/22	3
12/24	4
1/13	5
1/19	6
眠れ!	9
1/31	11
2/9	12
2/12	13
奥付	
奥付	17

あなたへ。

あなたへ。

わたしのただひとりの人、あなたへ。

いつかあなたと出会う時が来たなら

このノートといっしょに

わたしの心を預けます。

どうか

このノートを読むだれかが

あなたでありますように。

12 / 17

最大多数の最大幸福。

自己の欲求を殺せと、

仰せですか。

12 / 22

どうせわたしの安否を気づかってくれる人などいないのだ……と、

またまた いじけ期に突入。どうにかならんのかね、この躁うつ症。

またもみっこさんが 遅刻。かなちゃんも来ず。

ひろちゃんがいじけて「つっこ いっしょに いようね」とさ。

一昔前のわたくしならば、「あなたが わたしのものになろうとしないのに

わたしを 占有できるというの」と、問い返して、追い払うところ。

自分自身で傷つくのはよくても、人に傷つけられるのはごめん。

まして、自分が愛した人からは。

…… もっとも、このセリフ、自分自身に言った方が良さそうだけれどね。

12 / 24

今日は クリスマス・イヴ です。ツリーぬきの.....

人間として、真実を指向する者として、わたしは、

自分の幸福、と

他人の幸福、と

どちらを、大切に すべきでしょう..... ?

わたしらしさ、を保つことの 難しさ。

だれもわかっては、くれないのですね。こういうことに関しては人一倍

人の目を気にしてしまう 弱い わたしのことを。

それでもわたしは歌います。一人でも。

歌わなければならないと思うから。

ここで歌わなければ、わたしがわたしでなくなることを

知っているから。

..... なんか 壁が広くて、空間がしらけているなあ。

1 / 13

おねえが 妙な形の氷を持って来て、「これなんだか わかる !?」

かじってみればわかるというんで、毒かと用心しつつ なめてみると

「なんだ、普通の氷じゃない」。

平然として、

「ね、ただの氷だって わかったでしょ」

非常にシンプルなジョークだったもんで、うけた。

1 / 19

なんだか浮き上がっちゃって、仲間に入れてもらえないのか、

仲間に入れないのか、わからないのだけど、一つだけ確かなのは、

わたしが彼女らの仲間に入りたくて、そしてそれが不可能だと知っていること。

できないとわかっていて望むなんてバカもいいところだけれど、それでも

やっぱり、わたしはバカなのでしょう。

今、放課後なの。

残ってるのは、ダベってる連中と、友達待ってる人たちだけ。

結局、一人ぼっちは、わたしだけなんだよね.....。

友達が欲しいと思う。

ただ一人の親友というのが無理なら、

バカ騒ぎするグループでもいい。

女の子たちが円陣くんで話している時、

一人でいるのなんか 大っきらい。

--友達が欲しいと思う。

孤立するのは、あきた。

待って 待って 待って

何を待っているのか

一人の放課後 待ち人はなし

幸わせは遠い 道は長い

道という名のあの人も

調子いいのは利己主義者

落ちて 落ちて落ちて

行けるとこまで 落ち込んでしまおう

「下校時刻になりました」

下校のチャイムは鳴るけれど

友達こない だれもない

落ち 落ち 落ちこんで

いじけていよう

何も知らない ひろちゃんは

「すごいすごい」と喜ぶけれど

これは そんな風な ものじゃない

そんな気楽なものじゃない。

幸わせないね

友達 こない

こない いないコナン

ぐるぐる ぐるぐる ころ ころがって

だんだん ノンセンスになりますなあ

女子たち**** で

なんか言ってるよ

わたしが書くこと

気に入らんらし、

お高くとまって一人で偉ぶる

そう見えるだろう

そうだろう

みんな帰るよ

おまえはまだか

いつになったら

いじけ虫

わたしの胸から

出て行くのだい？

眠れ！

まだまだ書けるよ

おまえもバカだね

お腹がすいたら

帰って勉強

うん うんうんざり

何 書くのだろ

ぐるぐるぐるぐる

公園 来てまで

やだやだやだやだ

いつまで どこまで

バカ バカ 書いたら

気がすむ のだろ

眠い 眠い 眠れば

眠る 時、寝ます。

心も 体も お眠になったら

公園 ベンチで 寝てしまおうか

バカがわたしで

眠れない

体裁なんか くそくらえ

バカ バカ バカ バカ.....

眠られない。

1 / 31

またマコさんより手紙。筆まめな人ですなあ。

筆ぶしょうなわたしとしては 自分の書いた文章が 人手にわたるのは

きれいなので お返事は省略！ アハハ...

でも、だいたいがこのノートを書きはじめたのは 他人（ひと）に直接言えない

ことを なんとか知ってもらいたくて、孤独（ひとり）ごととでも 言いましょうか、

話しかけるかわりに 始めたのだからして、こういう返事をくれる人の

存在っていうのは ありがたいですなあ。

わずかなりとも 意志の疎通があるということは ”書いている” ことが

むだではないということの 証明になりますから。

2 / 9

ガ~~~~ン!!

桜の倍率 1.16, 落ちる人 76人! ★

移動する人、どれぐらいいるかしらん?!

2 / 1 2

―― まいった。

わたしが 桜 受けると、どうしても、「落とした」って 見られるらしい。

宮尾先生が お尋ねになられるに、本当に あなたの 意志で

行きたいのか、一度聞こうと思っていたの……。

そんなに優秀じゃあ ないですよ。

図書館があって、環境が良くて、落ちついて書けそうだから …… と。

説明しておいたけど…… あ、大学進学率の事、言わなかったなあ。

期末考査

国語 9 6

数学 7 2

理科 7 6

社会 9 2

英語 8 4

音楽 8 6

体育

家庭 7 9

美術

奥付

奥付

すいません。(^^;)

入力未完のまま、忘れていたのですが、

このまま捨て置くのも労力もったいないので、

後悔しないよう更改しないままで

公開しちゃいます。

(^^;)

2015.09.25.

春まだき(6)

../../../../book/21441

著者：土岐 真扉

著者プロフィール：../../../../users/masatotoki/profile

感想はこちらのコメントへ

../../../../book/21441

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/21441>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<https://puboo.jp/>)

運営会社：株式会社ブクログ

春まだき (6)

著 霧樹 里守 (きりぎ・りす)

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
